

報 告 書

開 催 日 時	令和 7 年 7 月 15 日	19 時 30 分 ～ 21 時 00 分	
自治協議会名	博要住民自治協議会	開 催 場 所	博要地区市民センター
出席議員	森中秀哲、内原 篤、山口康子、宮崎栄樹		
	班 長	森中秀哲	記録・報告者 宮崎栄樹
参加人数	15 名		

【主な意見・提言等】

1. 移住・定住について

- 博要地区は人口 300 未満ながら、約 20%が移住者。30 年以上前から川上ダム上流域の将来危機感を背景に移住促進に取り組み、ネットワークを広げてきた。
- 移住者の多くは地域活動に協力的で、「来てよかった」との声も多い一方、生活の厳しさを感じる人もいる。
- 主な課題・要望
 - 空き家問題**：空き家バンク登録ゼロ。登録のハードルが高く、未活用物件が多い。空き家バンクに載らない物件を行政が制度的に扱えないか。
 - 住宅・農地の扱い**：売買時に「家も山も畑も一括」される例があり、権利関係が不明瞭。地籍調査の推進を希望。
 - 発信の課題**：地域独自の情報発信では限界があるため、市や県単位で移住希望者へ情報を届ける窓口を望む。
 - 働き先**：職場環境改善への期待。農業・カフェ・民泊など起業希望者もいるが、都市計画規制が障害に。規制緩和の要望あり。
 - 二拠点居住**：新しいトレンドとして行政の把握・対応を求める。

2. 獣害対策

- 被害の背景として林業の衰退が指摘された。
- 中山間地域等直接支払を活用し対策を継続してきたが、サルの被害が特に大きい。
- 鹿・アライグマ、近年はカラスによる被害も発生。
- 対策例・意見
 - 市が山を購入し、間伐を進めて環境整備することを提案。
 - 追い払い花火の価格が高騰（現在 500 円）しており、経費負担が重いとの声。

3. 高齢者・地域活動

- 老人クラブの存続問題

- 会員減少、役員のなり手不足が深刻。上津は解散、老川は青山老連を退会。
- 補助金の事務処理（領収書提出など）が負担で、継続困難との意見多数。
- 老人クラブを名称や形態を変える自治体もあり、今後のあり方検討が必要。

- 旧博要小学校の活用

- 地域のシンボルとして残したい。現在は自治協が管理。市長から「残してよい」との発言もあったが、その後の進展なし。継続支援を求める。

- 地域おこし協力隊

- 今年で3年目。活動は地域の支えとして評価されている。
-

まとめ・要望

1. 移住促進に関し、空き家バンク未登録物件の活用制度や規制緩和、市・県単位の発信体制を検討してほしい。
2. 獣害対策では、サル・鹿・アライグマ・カラスへの多面的な対応が必要。追い払い経費や森林整備への市の支援を望む。
3. 高齢化に伴う老人クラブの持続性確保、旧小学校の利活用、市による高齢者支援施策の強化を要望する。

伊賀市議会議長 様

令和7年9月16日

上記のとおり、地域意見交換会の概要について報告いたします。

令和7年度 地域意見交換会 1 班

班長 森中 秀哲